

平成30年10月13日(土)と14日(日)に、東京都江東区有明の東京ビックサイト(東京国際展示場)及びそなエリア東京(東京臨海公園広域防災公園)を会場として、「防災推進国民大会2018」が「大規模災害に備える～みんなの連携の輪を地域で強くする～」をテーマとして開催されました。

その中で、日本消防協会及び日本防火・防災協会は、10月14日(日)、そなエリア東京において、「将来の地域防災の担い手育成」をテーマとして、子供たちの人材育成のあり方を考えるセッションを開催しました。

当日は、前日に開催した「少年消防クラブ指導者交流会」に参加した全国の指導者を含め180人を超える方々に来場頂き、立ち見ができるほどでした。

開会に先立ち、防災推進国民会議の副議長であり、日本消防協会及び日本防火・防災協会の秋本敏文会長から「災害への対応は、地域としてどう対応するかが大事で、平時からの備えがなければならない。そのため、地域防災の中核として、共助の中心的役割を担う消防団は勿論のこと自主防災組織、女性防火クラブ、少年消防クラブなどの地域の各種団

体が連携協力することが必要です。少年消防クラブは全国で4千6百のクラブに42万人のクラブ員と指導者1万4千人が活動しており、クラブ員には、家庭や学校ある



秋本敏文日本消防協会／
日本防火・防災協会会長

いは地域で、防火・防災の輪を広げていくリーダーとして活躍し、あるいは将来の地域防災の担い手となることを期待しています」との挨拶がありました。

第1部 少年消防クラブ活動発表

関東近県で活動している5クラブが各々約10分間、写真や映像を交えながら複数のクラブ員が交代で活動事例の発表を行いました。

(1) 埼玉県三郷市少年消防クラブ

平成23年4月1日設立、クラブ員数116名(発表時、以下同じ)

規律訓練、軽可搬ポンプ操法、消防体験学



習や宿泊研修など多彩な年間の活動を発表



(2) 千葉県浦安市少年消防団

平成 24 年 4 月 1 日設立、クラブ員 71 名
応急手当訓練に力を入れているが、1泊2
日で実施した震災時対応訓練の内容を発表



(3) 東京都成城少年消防団

昭和 54 年 6 月 10 日設立、クラブ員数 58 名
昨年 7 月開催されたオーストリアでの青少
年消防オリンピック参加の様態を中心に発表



(4) 東京都町田市少年消防団

昭和 53 年 5 月 20 日設立、クラブ員数 66 名
各種訓練の中でも他にはない、30 キロや 40
キロを歩く徒歩訓練の様態を発表



(5) 神奈川県大和市少年消防団

平成 5 年 4 月 1 日設立、クラブ員数 194 名
初期消火、応急手当などの訓練、社会福祉
施設への訪問活動や避難所体験の様態を発表



第 2 部 発表クラブの指導者と会場内参加者 によるディスカッション

日本防火・防災協会西藤公司理事長のコー
ディネートで、発表を行ったクラブの指導者
5 人と会場内参加者により、将来の地域防災
の担い手として子供たちに期待することなど
についてディスカッションを行いました。



まず、会場から指導者に対する質問を求め
たところ「クラブ員の募集方法」と「クラブ
の活動財源」について質問があり、募集方法
では「地域の学校で募集」「クラブ員の父兄の
口コミ」などの、活動財源については「市や
地域の企業・団体から支援」「会費を徴収」な
どの回答がありました。

次に、「子供たちが訓練等で得た知識経験を、
将来に向かって如何に継続、発展させるかが
大事だと考えるが、どのような形で『地域防
災の担い手』に繋げていこうとしているか」
について議論がなされました。

最後に、総務省消防庁の大村慎一国民保護・
防災部長から総括があり、セッションは予定
時間を過ぎるほど盛会のうちに終了となりま
した。



西藤公司日本防火・
防災協会理事長



大村慎一消防庁国民保護・
防災部長

なお、セッションの様態は、日本防火・防
災協会ホームページでご覧いただけます。